

### 変化に染まりながら

機械工学科2年 小原 涼 香

生涯、変化の連続だ。いつか、名ばかりを知る芸能人がテレビで世を去ると報じられ、家の外では冬の風が暖かくなり始めていた。そして春には泣く泣く友に別れを告げ、母校を巣立つ者たちを見た。何はともあれ、散りゆく桜と共に新たな自分と成りゆく。それが彼らの末路なのだろう。

時に私は、自ずと変化し続ける木々や花や空を羨ましく感じるがあった。迷いや恐れなどとはこの上なく無縁で、己が朽ちるなどまるで厭わない、みたいな。人の死も友との別れも当然で儂い。季節の廻りも然りだ。人は変化に思い悩む。では自然はどうだろう。木々は。花は。空は。かつてはそんなこと、考えもしなかった。しかし、この本を介してその世界へのレンズを覗いたときである。本当は自然だって私と同じなのでは——。そんな疑問が私の胸を曇らせたのだ。主人公のフレディ、彼が葉っぱだったから。

「葉っぱのフレディ」との出会いは中学三年生の頃で、彼と私の仲立ちをしたのは塾の英語の先生。

「単純な絵本のようにだけれど、年を重ねるにつれていろんな解釈ができるのよ。」

そうおっしゃった先生に渡された英文を訳しながら、ただ変わり果て、死を迎える葉の虚しい姿だけが印象的であったのを覚えている。

フレディはいつも素直だった。新しいことを知る喜び、厳しい現実を受け入れる過酷さ、その全てに感情を訴えかけた。今となって、その感性が私のものと似通うことに気付く。同時に、変化が時に喜びをもたらすことにも。彼は考え方も、見た目も変わっていったが、いつだってその度に一喜一憂して、それを受け入れていた。なんて強いのだろうと、私は愕然とする。そして、どうも釈然としない気持ちが頭のどこかで積もってゆく。私はフレディが羨ましかったのだろうか。いや、そうじゃない。きっと悲しい変化を認めることを、心の片隅で無慈悲だとか、薄情だと捉える自分がいた。だから、変化を乗り越えていくフレディの輝きが私の脆弱さを引き立てていたのが、ショックだったのだ。

明日も変わらずテレビでは悲しいニュースが流れ、町のどこかでは別れの声があげる。しかし同じように新しい命が生まれ、誰かの人生を変えてしまうような出会いが必ずある。その移り変わりは奇跡みたいなもので、儂い。だから大事にしなくてはならないのだと切に思う。何かのために味わう苦しみも何かのために噛みしめる喜びも。それを受け入れることが、私を強くするのだから。

- 書名：葉っぱのフレディ
- 著者名：レオ・バスカーリア
- 出版社：童話屋

### 生きる努力

制御情報工学科2年 荒井 寿美麗

私は去年の12月に16回目の誕生日を迎えた。自分が今もお、苦しまずに生活をおくれているのは、背後でいつも両親が支えてくれているからだ。そういうところも含めて、秋雪君と私との間には、いくつかの共通点がある。

秋雪君は、重い心臓病とダウン症を持って生まれてきた。主治医には1歳の誕生日を迎えるのは難しいだろうと言われたそうだ。しかし彼は、苦しい思いをしながらも6歳まで精一杯生き続けた。このことを知って私は考えた。人の幸せとは何か。それは、今現在を楽しく元気に過ごせることだ。私が生まれてくる時は、主治医に私がもし生まれても母子共に死んでしまうかもしれないと言われる程の難産だったようだ。そんな中でも、母親は無理をして、私をこの世界に導いてくれた。私の場合は重い心臓病とへその緒が首に絡まって麻痺していたそうだ。そして、生きられても3歳までという厳しい条件を告げられた。結果的に、私はまだ生きている。障害も持っていない。そこが私と秋雪君の違いである。この話は、私が小学校6年生の時に親から聞いた。その時期はちょうど受験前ということでストレスが溜まって常にイライラしていた。また、友達付き合いも上手いかず親にひたすら反抗していた。その時に、1度だけ禁句を言ってしまったことがある。それは、「私なんて生まれて

こなかったらよかったのに。」という台詞だ。言った瞬間、かなり後悔した。不幸中の幸い、その言葉を聞いていたのは父親だった。もし、母親の前でそんなことを言ってしまっていたらと思うと冷や汗が出る。それから、父親にはこっぴどく叱られた。どんな苦勞をしたかも知らないで、二度とそんなことを言うなと。また、死にたくなくなるのは誰もが通る道だと教えてくれた。あの時の父親の顔はいつもより深く見えた。

私の名前は「寿美麗」である。この名前は父親がつけてくれた。これも親から聞いた話だが、すみれの花というのは実は雑草らしい。しかし、たとえ踏み潰されても靴のかかとに香りを残す植物だそうだ。そんな強い人になってもらいたいという思いが私の名前にこもっている。そんな地味な植物に、凄く派手な漢字をあてたものだから、名前負けしているようで少し辛い。実際、していると言い切れるだろう。しかし、まだ私は咲いていない。小さな蕾である。これから、沢山の経験を積んで、一輪の綺麗な花を咲かそう。いつか、名前を越えられるような素敵な花を。

- 書名：たったひとつのたからもの
- 著者名：加藤浩美
- 出版社：文藝春秋

### 肝心なことは見えない

建設システム工学科2年 関本 風花

子供の頃は見えていた。わかっていた。大事なものを。でも、大人になるたびに見えなくなっていく。

この本にでてくる王子さまは7つの惑星を旅する。大人というのは変わっていると思いながら。

人間は誰だってそうだ。あんな大人にはならないとか言うけど、気づかぬうちにあんな大人になっていくんだ。忙しいフリしてるだけなんじゃないの。寂しさをごまかすように。大人っていうのは。

王子さまの星に咲いていた1本のバラは、王子様にとって大切なバラだったんだけど、そのバラはどこにでもある普通のバラだった。王子さまはすごく悲しむんだ。一生懸命愛したバラが実はどこにでもあるバラだったなんてって。でもキツネと出会い、知った。

「あの花はぼくにとって、世界でただ1つの花になった」と。これは王子さまが「無駄にした時間の分だけ、大切なものになる」ということを忘れていたから。王子さまがバラのために費やした分だけ、バラは王子さまにとって大事なバラになる。た

とえそのバラがどこにでもある花だとしても。

たった1つの庭で私が5000本のバラを育てても、それでも王子さまが探しているものは見つけれない。みんなが探しているものはたった1本のバラやほんの少しの水の中に見つかるのに。それすら見えなくなっていく。肝心なことは目では見えない。いちばん大事なものは目には映らない。心で探さないといけない。

あ、そうか。私も忘れていた。初めから大切なものなんてない。絆とか愛とか最初からあるものじゃない。時間をかけ寄り添うようにして一緒にいることで初めて見えてくる。そのためには忍耐がいるけど。

すぐ近くに大切なものはあるのに見えないときだってある。コンタクトをとった瞬間のぼやける風景のように。

大切なもの、ちゃんと見えていますか。

- 書名：星の王子さま
- 著者名：アントワーヌ・ド・サンテグジュペリ
- 出版社：集英社



## 図書館からの推薦図書

平成26年度の新着図書から紹介します。

### 『書き出し「世界文学全集」』

柴田元幸 編・訳

タイトルは知っているけれど、読んだことのない作品は意外と多くあると思います。読んでみようと思いつつも手を出しにくい文学作品の冒頭部分が、本書では柴田元幸の新訳で73作品読むことができます。

本書を読んで続きの気になる作品に出会えたら、ぜひ手にとって読んでみてはいかがでしょうか。

\*閲覧室：904|Sh18

### 『世界の夢の図書館』

図書館と聞くとどのような図書館を想像しますか？本書を開くと、想像以上の図書館が世界にはあるということに驚かされます。

ハリーポッターの舞台になった図書館など、世界遺産から現代建築まで、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカ、オセアニアから厳選された37館が紹介されています。

世界中の図書館を旅した気分になれる一冊です。

\*閲覧室：010.2|Se22

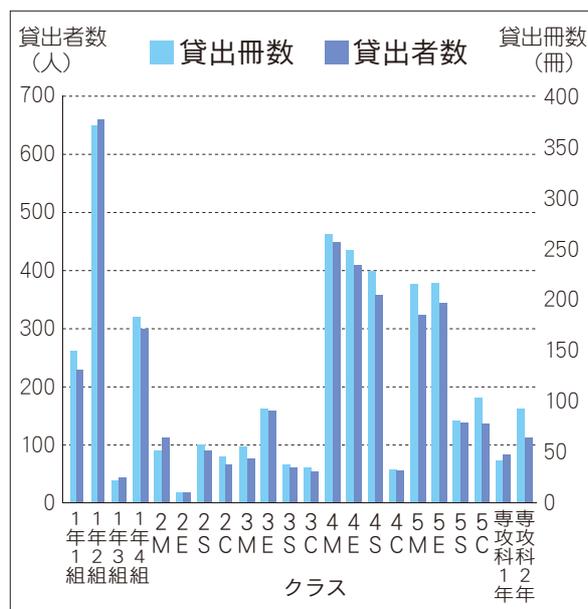


## 図書館利用統計（平成26年度4月～12月期）

### ◎図書貸出ランキング（上位10冊）

順位	回数	書名
1	73	TOEICテスト新公式問題集 Vol.5
2	69	TOEICテスト新公式問題集 Vol.4
3	35	TOEICテスト新公式問題集 Vol.3
4	33	TOEICテスト新公式問題集 Vol.1
5	26	新編高専の数学2 問題集
6	20	大学・高専生のための解法演習 微分積分 1
6	20	電気機器 1
8	19	工業英検 4級クリア
9	18	新編高専の数学3 問題集
9	18	工業英検 4級問題集

### ◎クラス別年間利用状況



## 図書館からのお知らせ



**開館時間**

- 平日 9時～19時（ただし休業期間中は9時～17時）
- 土曜日 11時～17時（日・祝日は休館）

★図書館は保護者の方、一般の方もご利用になれます。  
・貸出を希望される場合は、運転免許証など身分を証明できるものをご持参ください。

**貸出冊数** 5冊まで（長期休業期間中は10冊） **貸出期間** 14日間

館内資料の文献複写（著作権法の範囲内での有料複写）や、DVD・ビデオコーナーもご利用いただけます。  
詳しくは図書館までお問い合わせください。

**TEL** 0884-23-7106 **E-mail** tosho@anan-nct.ac.jp

★ホームページにて、蔵書検索や利用案内、図書館開館カレンダーなどご利用いただけます。

**URL** <http://www.anan-nct.ac.jp/library/>

図書館では、みなさんのリクエストを受け付けています。

読みたい本や、授業や研究で使う本などがありましたら、図書閲覧室入口の投書箱へ投函してください。

